

神宮日として

必死の猛練習

郡下青年選手決る

神宮競技縣選を兼ねた縣聯合青年團對抗陸上競技並に武道大會は來月六日午前八時より福島市營グラウンドで各郡の精銳を網羅して華々しく舉行されるが本郡の出場選手は左の諸君に決定目下營中グラウンドで合同猛練習である、因に昨年度は第一位を惜しくも相馬に奪はれたのに鑑み充分詮衡の上ベストメンバーを編成したもので活躍を期待される

△陸上競技
(百米)平柏原武三(四百)

米)内郷大谷岸雄(千五百米)内郷小池敬一(一萬米)内郷佐藤武壽(走幅跳)平草野道雄(走高跳)平花澤保夫(砲丸投)内郷伊藤徳夫(俵擔)湯本遠藤丑五郎(千米瑞典繩走)坂本誠 加藤鐵與 寒河江武雄 大谷岸雄

△劍道 好問栗城映 植田長江定市 平志賀義一
△柔道 神谷阿部文平 平白井晃 内郷根本富一
△相撲 内郷鈴木幸七 好問第一細山義雄 内郷大河原美津次

意氣昂る

秋刀魚漁船

來る廿日の解禁日

三陸沖に一齊出航

秋の食膳を賑はす大衆的味覺の王者秋刀魚類は愈々來る廿日午前零時を以つて解禁されるが過般本縣並に千葉、茨城、宮城の四縣水産係官に依つて協定された結果四縣出漁船は一、岩手縣(釜石港)宮城縣(氣仙沼)(石巻)鹽釜(女川)の五港中何れかを根據地として集合した上四縣から出張する係員から出漁證明書を受け十九日中に夫々の港を離れ

し右解禁時までに漁業に到着する豫定であるこれに就いて福島縣係官は宮城縣女川港に出張し本縣漁船に出帆時明記の出漁證明書を交付することになった、尙本縣指導船磐城丸は各縣指導船と共に夫々の漁場に出動して農林省水産局の漁業監視船詳鳳丸と同様廿五、六日頃まで密漁船取締りに任ずることになった、因に本縣出漁船は約五十隻で夏

遠洋漁業に北海沖樺太方面に活躍した江名、中之作港の持船が大部分を占めてゐる

小名濱修築費

起債認可

起債申請中であつた小名濱港修築費は十六日内務省より左記の如く正式認可された、本年度國庫納付金四十萬圓のうち地元小名濱町寄付金二萬四千圓、受益會社寄付金三萬五千圓及び國庫補助金二萬六千餘圓の殘額卅一萬四千圓

あす記念日に

國防婦人會

忠魂碑前の集ひ
大日本國防婦人會平分会では明日十八日滿洲事變勃發四週年に相當するため同日午後五時松ヶ岡公園忠魂碑前に集合忠魂碑參拜、遙拜式勅語奉讀の式後マルトモホールで晩餐後座談會を開催萬歳を三唱して閉會すると

實業教育振興

西山氏出席

實業教育振興會の今年度總會は來る十月二十一日福島教育會館で開催されるが本郡より支會長西山直三郎氏外實業學校訓導及び生徒が多數出席する

勿來蒔市場

廿七日から開場

勿來町蒔市場は取引蒔薄から一時休場してゐたが愈々晩秋蠶の出廻り期となるの

で來る廿七日から開場晩秋蠶の取引を開始する

小名濱大敷網

廿五萬圓

近年の大漁

小名濱町大敷網は本月初一杯で夏季投網を打ち切り十日からは久之濱に於いて冬の投網を行ふべく準備中であるが本年夏季の漁獲高月は二十五萬圓餘に及び近年にならぬ大漁を見た

「選舉肅正」作品

平校で入賞者發表

平町各小學校では既報の如く選舉肅正を強調する綴方ポスター書方を兒童より募集中であつたが此の程優秀證衡が終り書方は各家庭の神棚へ貼布し綴方は平の教育紙上にポスターは左の優秀作品十五点をマルトモ書店ウエンドウに夫々發表した入賞者左の如し

△平第一校 永山誠也
(高二)館次男(同)鈴木金雄(尋六)石山皎一(同)本多芳方(同)△平第二校 石井美智子(高二)佐藤久子(高一)高木光子(尋六)梅津吉子(同)柴田離若子(尋五)△第三校 吉田眞一(六年男)馬目孝吉(同)大原英保(同)永島佳子(六年)女松山さと子

下教員出場者は左の三氏に決定した

△劍道 赤井第一大友能
一(二段)大野第二根本名治(三段)
△柔道 小名濱校中根武夫(二段)

山村稻作視察 只野

平稅務署長は來年度課稅の參考に來る十六、十七兩日三坂、澤渡、永戸方面の稲作並に晩秋蠶狀況の視察を行ふ

滿洲記念講演

平町各學校では明日十八日の滿洲事變記念日に際し講堂で夫々學校長の記念講演を行ふと

幼年劍道

あす豫選

神宮體育大會劍道選手本縣豫選へ出場の郡下幼年部豫選は來る十九日正午より平第一小學校講堂で開催されるが参加資格は滿十二才の兒童で各校二名宛を出場せしめると

平職業紹介所報告

回人を求める方

△農夫 五十迄 月六圓
△女中 二十迄 尋卒 年五十圓
△保險外交員 八名 尋卒 外面談
△雜役夫 二十前後 月十四五圓

回職を求むる方

△旅館女中 二十五才 高卒
△印刷見習 二十才 高卒
△鐵工 二十二才 高卒
△機械工 三十二才 高卒
△裁縫見習 十七才 高卒

平町人事

回出生

△長橋町三〇高民四郎氏長女榮枝
△南町當時内郷村字御蔵山内勝壽氏三女シメ子
△彌宣町鈴木健吉氏二男佐一

回死

△研町當時好問村字川中子影山雄二(七ツ)きん
△正月町一九松本カヨ(六三)さん

大量共販

大麥の格付 一石七圓半

昨報十六日午後一時から團體事務所で開かれた各村米穀受檢組合の大麥格付協議會の結果郡米穀受檢組合聯合會の手依つて直に検査を執行し合格品は共同販賣を行つて郡産大麥の大量出荷を計る事となつたので二三日中に聯合會最初の検査を大浦倉庫で開く筈であるが現在郡内の在庫數三千俵は市價一石當り七圓五十錢茨城縣に出荷すると一俵十と云ふ高値を見せて居る

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町 南町一六(電話一七〇番)

高久醫院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五一三番

内科小兒科
耳鼻咽喉科
外科花柳病科
レントゲン科

感傷の秋・家出人續々

船長・人妻・娘・學生・その他大勢

平署へ捜査願ひの波

感傷の秋は春と共に遂ひフ
ラ／＼と飛出す家出のシ
ズンだ！選挙騒ぎでゴツタ
返す平署へ此處二三日中
十餘件の大量捜査願ひ舞ひ
込み署員を驚かしたが主な
家出人を拾つて見る

小名濱町字中坪船主立花雄
七所有船第八金比羅丸船長
徳島縣海部郡幸岐町生れ奥
村重輔(○)は去月五日同町
大衆旅館に宿泊中同家女中
平町紺屋町生れ橋本トシ子
(三)と懇になり行衛を晦し
たが仙臺市内に潜伏してゐ
るらしいと本日平署に舟主
より捜査方を願ひ出た

神兵隊に躍つた

郡關係の唯一人

警中時代の佐藤守義

この程豫審終結し戦慄すべ
き内容を公された例の神兵
隊の幹部部として活躍した
佐藤守義(三)は赤井村生れ
で大正十四年警城中學校入
學四年の二期家庭の事情
で退學二年後復校を希望し
たが許されず石川中學校に編
入昭和六年卒業と同時に上
京神兵隊茨城小隊のオルグ
小池銀次郎氏の紹介で愛國
勤勞黨に入り「國民思想」の
編輯に従事し大亞細亞協會常
任幹事に推され右翼の尖鋭

分子として活躍中のもので
あつた、現在は東京市瀧野
川に本籍は移され赤井村に
は身寄りも無くなつてゐる
が警中時代の擔任だつた廣
田教諭は
却々かかぬ氣の男で強情
者だつたが頭がよく英語
と數學に秀れ文才があり
「大アジヤ主義社」に入社
した以後の動きは全然不
明であつた」と語つてゐ

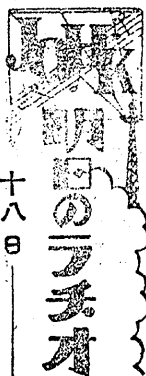
無心を断られ

内妻を殴る

亂暴な露店商檢舉

内郷村大字小島字新町一二
平町磐城佐賀學舎生徒安藤
久雄(一)は去る九日朝平常
通り通學の爲め家を出たき
り歸宅せず

平町仲間町露天商小銀治政
葛(三)は昨十六日午後六時
頃自宅内妻の清原クニ
(四)に金の工面をしると云



天 今晩北東の風
雨模様明日北西
の風天氣よし

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
「名作物語」法螺吹先生東
京放送童話研究会
後六、二五 青年の時間
「石川翁の農村更生策」伊
藤理一郎秋田
後七、二五 座談會「黄海
戦争を偲ぶ」小笠原海軍
中將他

後八、〇〇 軍歌 東北帝
大二高仙臺高工東北學院
聯合合唱團
後八、二〇 義太夫 寺子
屋竹本大隅太夫鶴澤道八
後九、一〇 バツハヘンデ
ル時代まで 菅原明朗
指揮大阪ラヂオオーケス
トラ
後九、三〇 時報 ニュー

某派の違反事件

検事局に移る

けふ關係者續々召喚

既報一平署管内の違反事件
は檢舉總數廿二名に達した
が大体取調も一段落を告げ
たので本十七日朝候補外一
名を除いた關係者全部を一
先づ歸宅せしめたが去る十
五日來平せる後藤檢事正と
打合せた平檢事局では本日
午後から更に前記違反關係
者を續々召喚して取調べを
開始した

オシヤレ病

豫防督勵

大童の取締所

初秋蠶取引の高値に刺戟さ
れた郡下の養蠶家は晩秋蠶
掃立を急ぎいづれも一二割

稼ぐ人

多忙の紹介所

夏井川改修工事場に就業せ
しむる人夫は三百名以上の
大拂底を見たので平紹介所

ス 氣象通報

明日の部
前六、三〇 英語講座 清
野暢一郎
前七、〇一 朝の修飯禪話
(十二講)天袖接三
前八、〇三 婦人講座
「編物」高木美代子
後八、〇五 マンドリン
東京プレクトラムスキ
ン
後九、〇〇 婦人の時間
「露都に開かれた」萬國生
理學會に出席して 久崎
章
後九、三〇 講演「滿洲事

變町村」木村匡
後六、〇〇 子供の時間
名作物語「法螺吹先生」東
京放送童話研究会
後六、二五 基礎英語講座
岡倉由三郎
後七、三〇 滿洲事變 四
周年記念講演「事變四周
年に際し」南關東軍司令
官滿洲より滿洲事變の思
出 本間六三郎
後八、〇〇 物語神々の女
高津慶子
後八、四〇 長唄 二つ巴
杵屋勝五郎他
後八、一〇 舞踏音楽管絃
樂交響曲黄金時代より十
九世紀期大阪放送交響樂

トシく拍子に

舗装工事進捗

長橋、紺屋町は明年か

平驛前より三丁目角に至る
町より長橋町に至る區間の
國道舗装工事は來月中旬ま
でに完成引續き四丁目平局
前から五丁目愛谷江筋橋間
國道舗装に着手これまた年
内に完成の筈であるが紺屋
町より長橋町に至る區間の
國道舗装工事は内務省の湯
本、久之濱間國道舗装工事
に含まれてゐるため紺屋町
長橋間の舗装は今年度には
實現されない模様である

素晴しい乗心地の!!!
三十五年式流線型新車が
参りまじした
是非御試乗御利用の程を御願申し
ます

三井タクシー
電話 六八五番



明治太平記

(上巻及下巻) (作) 寺島雄史 (著) 野口

第二百二十八回 開化の鬼 (五)

上等社會の紳士貴婦人のうちには面識のあるものもあつた。なにがし参議夫妻も、某々實業家の顔も、東北のさる舊藩主とその姫君もあつた。

だが、先方では、素浪人の大志賀が、よくも紳士にばけてきたと看破するものもなく、やはり、開化の新人のひとりとして御同様に鹿爪らしく、よそゆき顔して、白々しく肩をならべてゐるが

——白切符のおかげだ。大志賀は、さうおふともう可成り大膽になれた。薩摩の芋武士でさへ、時がきて、黒帽子を頭に戴くとそれで開化人だ。徳川直参のおれが、なんで彼等におくれをとるものか……といふのは、たんなる瘦我慢だけでもない。

紅毛服を着て、黒帽子をかぶり、エナメル靴をはいて、白招待券をポケットに入れてをるとそれで立派に新しい世紀の、華やかな騎士になれるのだ。竹刀ダコをつくつて、せつせ

道をはげみ、サウライの見識をそなへるために辛苦しめた日本の男子道など、では遠いむかしの傳説だつた新しい世紀の男子道修練は踏舞場で貴婦人の柳腰を擁し、肘掛椅子にのけ、そつて管樂合奏を聞きこゝへしをのみ弄牌に夢中になり



肌に香水を散布して、イゲレス語の一つ二つもあやつることができると、それだよいのだ。しかし、それをすゝめて西郷が、おれに白切符をへれ、紅毛服まで用意し

てくれたとはおもはれない。大志賀は、綺羅を飾つた紳士淑女の出入りを、愛憎兩様の眼で送迎しながら、ふと、西郷の心中をさぐつてみた。

——おれが、延進館參觀を希望した肚の底と、西郷がおれに白切符をくれた意中とはずいぶん分へたりがあらう。だがもしおれがこの天下の社交場で、文明開化人にあるまじき、行爲をなした場合は、それを教さしたのには西郷だと睨まれても、辯解の餘地はあるまい。おれの所持する白切符の出處は、すぐに判明して、西郷

そしてまた、その想像を打ち消した。もつと、軽い意味で、白切符をくれ、紅毛服を用意してくれたのだ。それにちがひない。

大志賀は、最後にそれを口のうちに咬いて、急に救はれたやうな氣持になつた。そこでひじ掛椅子に、ふかふかとうもれ、ボーイの持つてきた、コーヒの苦味を眉毛ひとつ動かさず味はつた。

——おう、やはり来てをるな。大志賀は、ポケットの白切符を、もみくちやにしてさらにできるだけちひさく引きさき、そつと窓のカーテンの隙間から後庭の芝生へ投げつけてしまつた。

これは、西郷に迷惑をかけぬための、細心の注意だつた。それから……のつそり、休けい室を出ていつた。廊下を十歩もあらくと、そこは歡樂の踏舞室宮内省雅樂部のにぎやかな管樂合奏にさそはれて西郷追隨の若き日本の紳士、貴婦人が不馴な足どり手つきで西洋人と片腕を組み陶々として舞踏をおどつてをるのだつた。

御料理折詰

仕出し

魚清食堂

平二警察署通り
電話六三三三

藤沼醫院

内科 小兒科 花柳病科
平町紺屋町 電話五〇七番

味覺の秋を楽しみ得る

香氣の高い 松茸

料理を始めました

出前 迅速 錦水

電四五四

◎最も理想的な相互扶助機關◎

□共存共榮自力更生の大策□
中小商工業者の大福音
石城中小商工互融會生る
融資御希望の方へは

十銭の日掛をなし三十日以上掛金をすれば九十圓の御用立を致します。金僅か十銭の日積で満額拂戻の時には五分以上の割戻分配を致します。

本會の事業

- 一、社會公共事業及慈善事業への奉仕
- 二、懇談會併精神修養講話會
- 三、會員の吉凶慶弔
- 四、人事百級の相談
- 五、法律無料相談
- 六、診療救恤の補助
- 七、納税の代納事務取扱
- 八、勤儉蓄積の奨励
- 九、小資本の融通
- 一〇、會員の特典
- 一一、會報の發行

◆皆さん御利用を願ひます
相互扶助機關

石城中小商工互融會

福島縣平町種樋小路一番地

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男

平町田町(電話五八番)
藤田女學校前

自炊のお需めに應ず
入院の便あり